

岡部大吾

何故今、空間演技再始動なのか？修羅場にて候なのか？色々な人に問われる度答に困った。明確な理由などなく、血が、DNAが今だ！と言っているのを感じたからである。それには勿論、今の時代背景や、今の自分の周りに修羅場にて候に耐える、スタッフ、キャストが集まっていたという事も含まれるのだろう。修羅場にて候は、父であり、劇作家である岡部耕大が、1981年に作・演出で発表した作品である。当時四歳の自分にその記憶はない。父が丁度今の自分位の時である、当時の父との戦いである、演出家として劇作家岡部耕大との戦いである。

稽古場で、毎日台本に負けそうになる、負けそうになる度、ジムに行った、縄跳びを跳んだ。血の芝居である、匂いの芝居である。自分の人生を何度も振り返った、ルーツをたどった。修羅場にて候を演出してみて、岡部耕大の息子であることを誇りに思う。本日は、ご来場誠にありがとうございました。



高橋裕太 (津田記念日)

自分が自分であるために勝ち続けなきゃと歌った曲が好きで。けれど現実では勝ちを実感できた瞬間は正直少なく。しかし今回は勝ちだけがすべての世界へ飛び込む。俺は俺でいられるのか。



山本翔三 (空間演技)

生きる事は戦い続ける事。未来に想いを馳せ過去に復讐する。方法と結果はどうあれ、大事な人を守りたいという原初の意志は間違いなく正義なのだと思います。嗚呼、修羅場。



中島文博 (空間演技)

「やってみなければわからぬものを、やらずにさっさと逃げ出すな」やってみたらわからないことだらけだった！まだまだ、戦いはこれからだっ



平川智彦 (空間演技)

自分が生まれる前に活動を休止していた劇団の再旗揚げに自分が携わっていることに改めて喜びと驚きを感じます。劇団空間演技の一員として熱い魂を見せたいと思います。



小林太一 (空間演技)

阿修羅は戦い続けるものだという。僕達もまた、お互いに思いをぶつけ合って生きている。人と人の感情の闘争、正に修羅場。今日も何処かで修羅場、修羅場、修羅場、修羅場……。



北川宏美 (パブリックチャンネル)

正直なところ、随分と時代錯誤な作品をやるのだと思いました。だからこそやりたいと食いつきました。その場で感じたことを大事にして頂けたらと思います。



五十嵐明 (青年座)

連日汗をかく、身体が資本だ。修羅場な時「生きているだけでありがたい」と思う。頑張る元気を絶やさない為にと心と身体を鍛えて生きたい。でも修羅場は御免だ！



川口絢都

突然のアクシデントで点演を受けながらこれを書いてます。そんな私が今思う事は、皆が無事千秋楽を迎える事です。劇団空間演技の再始動に出演させて頂ける事に感謝します。



松島希依

芝居作りを別の角度から学ぶため、今回、制作としてこの作品に関わる事ができた事を嬉しく思います。『修羅場にて候』を今、この時代に上演するという事。その意味を噛み締めて、皆さんと共に臨みたいと思います。